◆薬　局

室　長　和田匡央

2006年度薬局スタッフは昨年度同様、薬剤師４名、事務員１名の計５名であったが、熊本病院への２名異動に伴い、経験者１名、新卒１名の計２名の若手薬剤師を迎え入れた。

本年度は、８月の病院機能評価（Ver.５）受審に向け、また、新しく若手薬剤師を迎え入れたことから、薬局業務手順書の再構築を行った。従来、個々の情報・認識であったものをより判りやすく、文書化・明文化・図式化することにより、共通情報として有効活用できるように各種手順や書類の改訂・整備に取り組んだ。また、他部署、特に看護部との連携強化のため看護部・薬局関連業務マニュアルの再構築も行い、組織の一員として果たすべく薬局の役割を再認識し、医薬品適正使用の促進に努めた。

１．２００６年度採用薬剤師の育成

４月より新しく２名の若手薬剤師を迎え入れた。研修チェックシートを作成・利用し、先輩薬剤師によるＯＪＴを中心とした教育研修を行った。３カ月という短期間で薬局内における業務を理解してもらい、適宜サポートは受けながらではあるが、通常業務を問題なく遂行できるよう指導をした。また、病棟での活動として、薬剤管理指導業務を先輩薬剤師指導のもと経験し、医師、看護師及びその他スタッフとのコミュニケーションの重要性を認識し、薬剤師としてだけではなく医療人としての配慮ある対応を学んでもらった。６月からは調剤業務等と兼務ではあるが、早速担当病棟を受け持ち、患者や医師・看護師への医薬品に関する情報提供をはじめ、薬局と各部署とのさらなる連携強化に取り組んでもらった。2006年度は多忙な１年ではあったが、勤務１年目にして機能評価受審という貴重な経験もでき、非常に有意義な教育研修ができたと考える。

２．機能評価Ｖｅｒ．５受審

2005年度より引き続き、薬局業務手順書の再構築に取り組んだ。現在の業務工程と手順書との整合チェックを行い、手順書の改訂や、必要に応じて業務内容の見直しを行った。特に医薬品の安全管理に関して、薬局内だけでなく病棟、救急外来、手術室、救急台車等におけるストック薬の内容・管理方法を大幅に見直すことで、これまで以上に適正使用の促進に努め、訪問審査時、サーベイヤーからも評価頂いた。但し、当院規模においても注射薬ミキシングへの積極的な関与を求められ、今後の検討課題となった。その他、薬局は各部署との係わりも多く、各種委員会活動へも積極的に関与し、病院全体の業務改善に努め、機能評価受審に際して大いに貢献できたと考える。

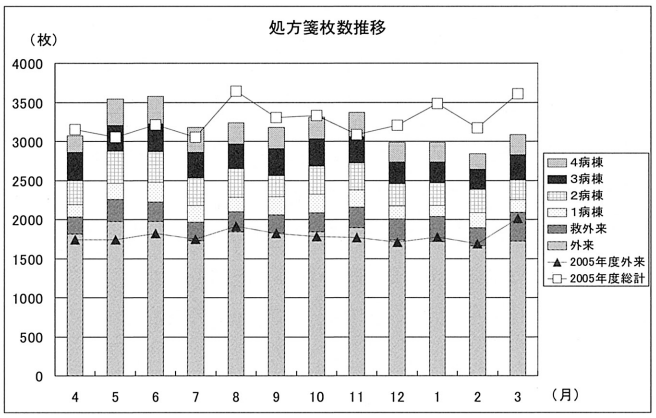
３．薬局内業務改善

2006年度も、外来処方箋調剤業務が中心であった。高齢者が多い地域性からも、服薬コンプライアンス向上のための一包化調剤が多く、また処方日数の増加による１回調剤量の増大や、それに伴う医薬品在庫管理の見直し等、調剤に係わる業務量は増加した。その中で、安全管理を第一に、適宜業務工程を見直しながら医薬品の適正使用に努めた。また、本年度も接遇面を強化し、比較的満足度の高い外来対応が維持できたと考える。

入院処方調剤については、定期処方の確立に加え、多忙な医師の業務量軽減、見やすい処方箋、薬歴管理によるインシデント防止等々を目的としたプレ定期処方箋印刷システムを導入した。電子カルテ導入までの措置として有益性が非常に高く、経営的にも貢献できるシステムであるが、年度末に導入し運用開始したばかりであるため、今後も医師、看護師と対話しながらさらに有効活用できるよう運用面等検討していく。

病棟業務については、新採用若手２名を含む３名（調剤業務等兼務）を配置。薬剤管理指導業務だけでなく、NST回診、ICT回診、緩和ケア回診にも参加し、病棟スタッフとのコミュニケーション強化を図るとともに、医薬品の適正使用に努めた。但し、薬剤管理指導件数については、調剤業務量の増加等により、十分な時間確保が困難な場合も多く、月100件の目標達成はできなかった。時間配分の再調整等、2007年度の課題となった。

医薬品の在庫管については、本年度も、済生会熊本病院との連携をとり、コスト削減に貢献できた。また、薬事委員会への関与及び医局会への参加による不動在庫等の使用促進にも努めた。



４．研修会・委員会活動等

薬剤師の能力向上のため、昨年度に引き続き部内担当持ち回りで、定期的に勉強会を開催。また看護師向けや地域住民向け（出前健康講座）にも、各薬剤師が講師となり医薬品に関する講演を行うことができた。その他、ＤＩニュース発行をはじめとする医薬品に関する情報提供を適宜行った。

各種委員会やプロジェクトにも積極的に参画し、書記や司会進行役も務め、病院機能評価（Ver.5）受審への対応だけでなく、年間を通して活動を継続し、病院全体の業務改善に大いに貢献できたと考える。

最後に、2007年度は、「セーフティマネージメントの強化」を薬局基本方針とし、他部署との関係を強化し、病院全体の安全管理に貢献できるよう努力していきたい。